

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果(概要)について

東白川村教育委員会

令和7年10月

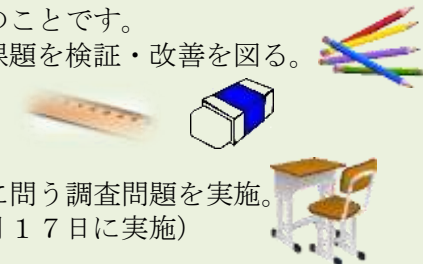
1. 全国学力・学習状況調査(全国学調)とは

次の3つのことを目的として、文部科学省が県や市町村の教育委員会等学校設置者の協力を得て、全国一斉に行う調査のことです。

- ①教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証・改善を図る。
- ②このような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ③学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

<調査方法・内容>

- ・小学校6年生を対象に国語、算数、理科を、中学校3年生を対象に国語、数学、理科について、知識・活用を一体的に問う調査問題を実施。その他に質問調査を実施。中学校理科においてオンラインでの調査を実施。(次年度より随時拡大予定)(令和7年4月17日に実施)
- ※質問調査とは、学習意欲や普段の暮らしぶり等に関する調査。(校種に関係なくオンラインによる回答)



2. 村の小中学校の結果(概要)

- ◇小学校では、「国語」、「理科」は、全国の平均正答率とほぼ同じです。「算数」は、全国の平均正答率と比べるとやや下回っています。
- ◇中学校では、「国語」、「数学」は、全国の平均正答率とほぼ同じです。「理科」は、全国の平均正答率と比べるとやや上回っています。
- ◇質問調査では、「自分には、よいところがあると思う」「学校に行くのは楽しい」の回答に、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」(以下、肯定的な回答)と答えた割合が、8割を超えており、全国平均、岐阜県平均とほぼ同じです。また、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の質問に、「当てはまる」と答えた割合が全国平均を上回っています。

3. 結果に対する考察

- ◇小中学校共通して、国語の「思考・判断・表現」に関する問題について全国平均と比べ下回り、やや課題が見受けられます。一方で無回答率は低く、文で表現することへの抵抗感は低いため、自分の思いや考えの根拠(作品の表現等)を示しながら、表現することに課題があると分析できます。
- ◇小学校算数においては、特に図形の作図において課題が見られました。今後は、図の特徴と作図の過程を結びつけることが必要であると分析できます。
- ◇中学校数学においては、示したい事柄の根拠を示すことに課題が見られました。根拠を明確にするためには、定理などに基づいて理論的に説明する力を伸ばす必要があると分析できます。
- ◇小学校・中学校の理科においては、実験を行う目的(条件制御など)を考えて取り組むことが今後必要であると分析できます。
- ◇昨年度と同様に、小・中学校ともに、正答数のばらつきを表す数値(標準偏差)を全国と比べると、東白川村の方が小さく、それぞれの教科の正答数に、あまり個人差が見られませんでした。少人数のメリットを活かし、一人一人の学習状況の見届けが行われていることが理由として考えられます。
- ◇小中学校とも、「自分には、よいところがあると思う」の問いに対し、「当てはまる」という回答が、昨年度の調査と比較すると改善されています。学校や家庭・地域で認められる機会が多いため自己肯定感が高くなったと分析できます。一方、「学校に行くのは楽しいか」という問いに対しては昨年度同様、全国正答率と比較するとやや低いです。引き続き、安心して学校生活を送れるように環境を整えることや児童生徒が「できた・わかった」と感じたり、「もっとやってみたい」という意欲をもたせたりすることが必要であると分析できます。また、「地域や社会をよくするために何かしてみたいか」との問いには全国平均を上回り、東白川村を愛し、地域に貢献していきたいと願う児童生徒が、他の地域に比べ多い傾向にあることが分析できます。
- ◇ICT機器の活用に関しての質問に関しては、全校や県の平均と比べ、やや高い傾向にあります。小学校や中学校に整備されたタブレットを児童生徒が主体的に使い、その効果を実感していると分析できます。

4. 今後の取組

- 上記の結果や考察を踏まえ、東白川村として次のことを大切にしています。
- ◇一人一人の子どもに学習状況の実態と改善に向けての助言をフィードバックします。
- ◇今後も、学校・家庭・地域との連携を大切にし、子どもたちのよさを認め励まし、将来の夢や目標に向かってたくましく生きていく児童・生徒の育成に取り組めます。



※小中学校の児童生徒や保護者の皆様には学校ごとの分析や、今後の取組に関する文書が配布されます。